

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●サマーシリーズ2022が開幕

毎夏恒例のサマーシリーズが本年も開幕しました。「サマースプリントシリーズ」は、ナムラクレアが勝利した6月12日(日)の函館スプリントS(GⅢ)から9月11日(日)のセントウルS(GⅡ)まで全6戦、「サマー2000シリーズ」は7月10日(日)の七夕賞(GⅢ)から9月4日(日)の新潟記念(GⅢ)まで全5戦、「サマーマイルシリーズ」は6月18日(土)の米子S(L)から9月11日(日)の京成杯オータムH(GⅢ)まで全4戦の予定。「サマージョッキーズシリーズ」は以上の全15戦が対象となります。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

I F H A (国際競馬統括機関連盟)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表されました(単位はポンド)。今回の発表分は2022年1月1日から6月5日までに実施された世界の主要レースが対象。日本調教馬ではタイトルホルダーが第9位タイ(121)、シャフリヤールと日本ダービーを勝ったドウデュースが第15位タイ(120)にランクインしています。

●ステルヴィオ、ワイドファラオらの競走馬登録抹消

2018年マイルチャンピオンシップ(GⅠ)などの勝ち馬ステルヴィオ(牡7歳/美浦・木村哲也厩舎/JRA通算21戦4勝)、2020年かしわ記念(船橋・JpnⅠ)などの勝ち馬ワイドファラオ(牡6歳/栗東・辻野泰之厩舎/JRA通算16戦3勝・地方9戦1勝)、2019年北海道2歳優駿(門別・JpnⅢ)の勝ち馬キメラヴェリテ(牡5歳/栗東・中竹和也厩舎/JRA通算14戦1勝・地方2戦1勝)、2020年トヨタ賞中京記念(GⅢ)の勝ち馬メイケイダイハード(牡7歳/栗東・中竹和也厩舎/JRA通算42戦5勝)は、5月11日(水)までに競走馬登録を抹消されました。ステルヴィオは北海道新ひだか町のアロースタッドで種牡馬となり、キメラヴェリテとメイケイダイハードは岡山県真庭市のオールド・フレンズ・ジャパンで乗馬となる予定。ワイドファラオは地方・大井競馬に移籍しています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●グランブリッジが関東オークス(川崎)で重賞初制覇

関東オークス(JpnⅡ、3歳牝馬、6月15日、川崎、2100m)は、2番手を進んだ4番人気のグランブリッジ(福永祐一騎手、父シニスターミニスター)が、逃げ粘るラブパイローを残り100mを切った辺りで捉えて3馬身差で楽勝。1番人気のスピーディキック(浦和)は3着、2番人気のドライゼは5着、3番人気のリッキーマジックは7着に敗れています。

●高知優駿(高知)は地元のガルボマンボ【各地の主要3歳重賞】

高知優駿(6月12日、高知、1900m)は、4番手から差を詰めた4番人気のガルボマンボ(牡、父ガルボ)が直線に入って間もなく差し切り、初の重賞制覇を果たしました。1番人気に推された大井からの遠征馬コスモボボラリタは3着でした。兵庫ダービー(6月9日、園田、1870m)は、2番手から3、4コーナー中間で先頭に立った1番人気のパウチェイサー(牡、父エスポワールシチー)が後続を4馬身引き離して3度目の重賞勝ち。東北優駿(6月14日、水沢、2000m)は、3番手追走から3コーナー手前で抜け出したグットクレンジング(牡、父コパノリチャード)が10馬身差で圧勝、単勝1.9倍の支持にこたえてダイヤモンドCに次ぐ岩手二冠を達成しています。※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ベルモントS～モードニゴールが米三冠最終戦を制す

現地6月11日に米国ニューヨーク州のベルモントパーク競馬場で行われたG1ベルモントS(3歳、ダート2400m)は、I.オルティスJr.騎手を背にして中団でレースを進めたモードニゴール(牡3歳、父アンクルモー)が直線で先頭に立って3馬身差で優勝。2着にG1ケンタッキーオークス2着から臨んだ紅一点のネストが入って、T.プレッチャー厩舎が1、2着を占めました(両馬に共有馬主として名を連ねるレポールステーブルにとってもワンツーフイニッシュ)。G1ケンタッキーダービーを制したりッチストライクは最後方から伸びず6着に終わっています。勝ったモードニゴールは、昨年12月のG2レムゼンS(ダート1800m)で重賞初制覇。今年4月のG2ウッドメモリアルS(ダート1800m)ではのちのG1ブリークネスS勝ち馬アーリーヴォーティングを下して優勝しましたが、続く前走のG1ケンタッキーダービーは後手に回り、最終コーナーでは大外に持ち出すロスもあって5着に敗れていました。

●G1プリンスオブウェールズS～シャフリヤールは4着

6月15日にイギリスのアスコット競馬場で行われたG1プリンスオブウェールズS(4歳上、芝1990m)はアイルランドのステートオブレスト(牡4歳、父スターズパングルドバナー、J.オブライエン厩舎)がS.クロース騎手とのコンビで逃げ切り勝ち。日本から参戦したシャフリヤールは2番手追走から直線で伸び切れず4着に終わりました。勝ったステートオブレストはこれでサラトガダービー(芝1900m)、コックスプレート(芝2040m)、ガナー賞(芝2100m)に続く4つ目のG1制覇です。